



(旧和商)

和商同窓会報



(新和商)

(発行所) 和歌山市砂山南3丁目3-94 県立和歌山商業高校内 TEL 36-6456 社団法人和商同窓会 (第18号) 平成元年3月1日(水曜日)

二万余の心を結ぶ

新「会員名簿」3月発刊

伝統に活力を

理事長 速水常興



母校和商高校は明治十七年に県下唯一の商業校として生れ、そのキャリアを誇ること八十余年となつてまいりました。その間、幾多の変遷を経た「和商」は、今なお先輩から後輩へ脈々と受け継がれて

立った同窓会員は約二万五千人を数え、特に地元経済である「實業、剛健」の気風は、明治、大正、昭和、平成へと伝承され、卒業生は国内は言わずもがな広く国際社会に雄飛している現状であります。今日まで果

と歴史に責任の重大さをこらへ、母校創立八十周年に際しては、母校創立八十周年記念式典が挙行されたのは、ついでに、母校の前身、田信雄先生を中心とした和商



完成した図書館・視聴覚教室

同窓会の皆さん方には、本校教育の振興・充実のため、常々、御高配を賜わり感謝いたしております。

本年は、年号も「平成」と改まり、新しい時代を迎えました。かえりみれば、昭和の時代は「日が明らか

に輝き和する」という語意に反して、激動の時代でありました。平成は「内平かに外成る」(史記)と「地平かに天成る」(書経)を典拠に「国の内外にも天地にも平和が達成されたい」という願いがこもっていると思ひます。

二十一世紀を目前にした「平成」時代は国際化・情報化・高学化社会と、これまで経験したことのない新時代を迎えます。このよ

うな時代に生きる我々は、先人に劣ることのない努力と英知を傾注し、調和のと

図書館・視聴覚教室 増改築完成について

学校長 谷口治美



協力を御尽力により、年次を追って整備・充実して参りました。

特に、昭和五十九年には、創立八十周年を記念して、待望久しかった和商会館が、建設され卒業生と在校生とが出来ます。在校生はもちろ

ろ、同窓会の皆さん方に、五二〇余名の卒業生を送り

新図書館は、建築面積四二〇㎡で八〇余名の閲覧が可能となり、又、新規視聴覚教室は、建築面積二二〇㎡で一〇〇名が一度に利用でき、二クラス、同時に授業の決定を新たにいたしてお

ろ、同窓会の皆さん方に、五二〇余名の卒業生を送り

実し、皆さんの後輩の教育に全力を傾け、より強固な校風を樹立するよう頑張りました。もちろん、委託するにについては、すでに、同窓会名簿を出版している県下各高校の様子を参考にし、メリット・デメリットの点や、不都合なことがないかといった点を検討し、更に

座右にぜひ一冊

松本安弘 (新六期)

母校の創立八十周年記念式典が挙行されたのは、ついでに、母校の前身、田信雄先生を中心とした和商

の創立八十周年記念式典が挙行されたのは、ついでに、母校の前身、田信雄先生を中心とした和商

この方針のもとに取り組むべきことを第一条件とし、最終的には役員会にはかり、委託業者を決定いたしました。

新制和商発足以降の同窓会名簿の発刊は、昭和二十九年、同四十二年、同五十二年に続き、今回で第四回目となりますが、いま、名簿作成の任を担当し、あらためて、その都度、名簿出版作業に携われ、ご尽力された先輩諸兄のご労苦を身にしみて感じた次第です。



員の消息が判明いたしました。準備の段階から編集・校正・出版にこぎつけるまでの長い間、ご苦労いただいた編集委員の皆様にご感謝申し上げます。

今回の名簿作成にあたっては、コンピュータを駆使しての名簿作成を一手に引き受ける専門企業に委託しました。もちろん、委託するにについては、すでに、同窓会名簿を出版している県下各高校の様子を参考にし、メリット・デメリットの点や、不都合なことがないかといった点を検討し、更に

新第二十八期評議員決る 平成元年三月卒業生

- 平成元年三月卒業の第三十八期生の評議員はつぎの通りです。(◎印は理事)
- 一組 杉山 八栄
 - 二組 南本 英三
 - 三組 大谷 敬治 ◎
 - 四組 和谷則子
 - 五組 山路 修平
 - 六組 浜端 美穂
 - 七組 上野 尚子 ◎
 - 八組 寺本 真理
 - 九組 辻本政次郎
 - 十組 中田 有紀
 - 十一組 嶋田 美鈴
 - 十二組 杭ノ瀬晴夫
 - 和市、坂田二八四
 - 和市、西庄一〇八〇一五
 - 和市、鳴神一〇四三
 - 和市、松江北二一〇一
 - 和市、吹上五二四一八
 - 和市、関戸一四一四六

